

【2020 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
国際福祉論		選択	2	1.2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
神谷 直樹	C312	nkamiya	木曜日 10:30~12:20		
授業の目的・概要	諸外国の医療・福祉の現状と課題について学び、日本が活気ある長寿社会を実現するために何が必要かを理解することを目的とする。グローバル・センチュリーと呼ばれる 21 世紀の課題は、地球規模での平和の実現と福祉の発展である。福祉国家の歴史と現状・課題、各国の福祉・医療の動向について学ぶことを通じて、国際的な視点から福祉・医療について考える授業を行う。また、国際福祉の課題（人権、平和、貧困、飢餓、難民、環境）についても学習する。第 1 回から第 7 回の授業は、毎回のテーマについて講義に代わる解説とその理解度チェック課題のやり取りをメール添付書類で実施する。提出された課題は採点をし、講評をつけて返却する。第 8 回以降は、マイクロソフト・チームズを利用して、同時方向型の遠隔授業を行う。				
学習上の助言	毎回の授業で提出する課題レポート等を作成する際には Web ページや図書館等を利用して適切な参考資料を収集・分析し、自らの考察を展開するようにする。遠隔授業の質疑応答に積極的に参加する。				
教科書	教科書は使用しない。				
参考書	曲がり角にきた福祉国家 /著:ピアソン 訳:神谷 直樹 /未来社 国際社会福祉論 /著:川村匡由著 /ミネルヴァ書房				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	日本および世界の医療・福祉の現状と課題を理解し、説明できる。			HSU(1)、HSU(2)	
②	活気ある高齢化社会を実現するための方策について理解し、説明できる。			HSU(5)	
③	健康観や障害観の変化について理解し、説明できる。			HSU(6)	
④	与えられた課題について資料を収集・分析できる。			HSU(6)	
⑤	自分自身の考察や主張を論理的な文章にまとめることができる。			HSU(2)	
⑥	講義の内容に関連した質疑応答に積極的に参加できる。			HSU(2)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	ガイダンス (この授業の概要)。日本の高齢社会の現状と課題について考える。課題レポートの提出、講評の確認。	印刷教材での授業	現代の日本社会が直面する課題について予習する。	6	
2	国連で採択された SDGs (持続可能な開発目標) の理念と内容を理解する。課題レポートの提出、講評の確認。	印刷教材での授業	メール等で示した課題に取り組む	6	
3	北欧諸国の高齢者福祉に見られる特色を、資料に基づいて考察する。課題レポートの提出、講評の確認。	印刷教材での授業	メール等で示した課題に取り組む。	6	
4	障害者に対する意識の国際比較の資料を基に、日本における障害者観の特色を分析する。課題レポートの提出、講評の確認。	印刷教材での授業	メール等で示した課題に取り組む	6	
5	障害者権利条約の内容を確認し、条約が目指す新しい「障害」観の特色について考える。課題レポートの提出、講評の確認。	印刷教材での授業	メール等で示した課題に取り組む。	6	
6	「障害＝個性」論に対する賛否両論に関する資料を分析し、考察する。課題レポートの提出、講評の確認。	印刷教材での授業	メール等で示した課題に取り組む	6	
7	WHO (世界保健機関) が提案した「健康」の定義を分析し、健康概念の再検討の意を考える。課題レポートの提出、講評の確認。	印刷教材での授業	メール等で示した課題に取り組む	6	
8	医療・福祉分野の労働力の国際移動について学習し、その意義や問題点について考える。課題レポートの提出、質疑応答。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に取り組む。	4	
9	介護保険の国際比較、日本の介護保険制度の現状と課題について学習する。課題レポートの提出、質疑応答。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に取り組む。	4	
10	ジェンダー格差に関する国際比較を行い、ジェンダー格差と福祉水準の関連について考察する。課題レポートの提出、質疑応答。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に取り組む。	4	
11	国際福祉の現状と課題、国際連合および国際機関の活動と課題について学習する。課題レポートの提出、質疑応答。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に取り組む。	4	
12	医療・福祉分野における NGO (非政府組織) の活動について学習する。課題レポートの提出、質疑応答。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に取り組む。	4	
13	センの「ケイパビリティ」概念の検討を通じて、発展途上国に対する援助のあり方を考える。課題レポートの提出、質疑応答。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に取り組む。	4	
14	国際紛争、難民問題の解決に向けた取り組みと、平和への課題について学習する。課題レポートの提出、質疑応答	同時双方向型授業	講義中に示した課題に取り組む。	4	
15	1 回～14 回の授業を振り返り、これからの医療・福祉のあり方をテーマに質疑応答を行う。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に取り組む。	4	

【2020 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群/旧カリキュラム】

試		レポート試験		達成度評価・評価のポイント			
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	40	0	40	20	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	0	10	0	20
	思考・推論・創造する力	0	10	0	10	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	10	10	30
	コミュニケーション力	0	0	0	0	5	5
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5
	問題を発見・解決する力	0	10	0	10	0	20
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	学期末にレポートを提出する。講義で示したテーマに関連する適切な文献・資料を収集し、それをもとに自分自身の考察をまとめる(40%)。				最終講義においてレポートの講評を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①	✓	毎回の授業で教員が示した課題に取り組み、レポート(1400字以上)等を提出する。(40%)				提出されたレポートについては、メール等で個別に講評を行うとともに、履修者全員に全体講評を配信する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
その他	①		遠隔授業における質疑応答や討論に積極的に参加する(20%)。				質疑応答や討論の内容を文章にまとめて、履修者全員に配信する。
	②						
	③						
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
備 考							
<p>担当教員：神谷 直樹</p> <p>課題レポート等の冒頭の部分には、表題・学籍番号・氏名・提出年月日を必ず記入すること。課題レポート等の末尾には参考資料を明記する。また、課題レポート等をメールの添付ファイルで提出する際には、「全員に返信」しないように注意する。</p> <p>遠隔授業の質疑応答には積極的に参加する</p> <p>*Teams を使用した同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨する。</p> <p>*今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更があり得る。</p>							